

最高傑作、再び

メルセデス・ベンツ C-Class The new sedan

先代モデル比70kgの軽量化を実現。

新型メルセデス・ベンツCクラスのコンセプトは「アジリティ&インテリジェンス」。機敏性、軽快さを示す「アジリティ」を先代モデル以上に追求し、さらに「インテリジェンス」によって安全性や快適性を一気に引き上げてきた。アルミニウムを多用した軽量ボディは運動性能の向上はもちろん、燃費の向上にも貢献し、さらにインテリアをはじめ最新のメルセデスの名にふさわしいクオリティの高さも見逃せない。日本の道でも扱いやすいサイズのセダンボディに、最上級のメルセデス・ベンツSクラスとほぼ同等のテクノロジーを詰め込んだといっても過言ではない新型Cクラス。190Eの登場以来1000万台以上が販売され、世界中で愛されてきたプレミアムセダンの魅力に迫ってみよう。



快適性が安全性に寄与するという考え方ですべての人に最高の安全性を提供することがメルセデス・ベンツの目標だ

[エコカー減税]
100%免税
C 180 C 200



発行所
日刊自動車新聞社
東京都港区芝大門1丁目10番11号
芝大門センタービル3階
電話 東京 (03) 5777-2351 代表

メルセデス・ベンツ

C-Class

特集号



AMGライン

吟味された機能パーツ、インテリアアイテムによってコーディネートされたAMGラインをC 180アバンギャルド、C 200アバンギャルドにオプション設定。人気の高いAMGスタイリングパッケージ(フロントスポイラー、サイド&リアスカート)に加え、専用スポーツサスペンション(C 180アバンギャルドのみ)、AIRMATICアジリティパッケージ(C 200アバンギャルドのみ)、AMG18インチ5スポークアルミホイール、ドリルドベンチレーテッドディスクなどで走行性能を強化。さらにレザー ARTICOのAMG前席スポーツシート、AMGスポーツステアリング、ステレンスアクセル&ブレーキペダル、LEDインテリジェントライトシステムなども装備され、よりスポーティかつ高いクオリティで新型Cクラスを仕上げるができる。



C 200アバンギャルドAMGライン仕様(オプション装着車)

メルセデス・ベンツ新型Cクラス 主要諸元表	C 180	C 180 アバンギャルド	C 200 アバンギャルド
車両重量(kg)	1,490	1,510	1,540
最小回転半径(m)	5.1		
JCO8 モード燃費(km/ℓ)	17.3		16.5
エンジン型式	274M16		274
エンジン総排気量(cc)	1,595		1,991
種類	DOHC 直列4気筒ターボチャージャー付		
使用燃料	無鉛プレミアムガソリン		
エンジン最高出力(ネット)(kW<PS>/rpm EEC)	115(156)/5,300		135(184)/5,500
エンジン最大トルク(ネット)(N・m<kgf-m>/rpm EEC)	250(25.5)/1,200~4,000		300(30.6)/1,200~4,000
燃料タンク容量(ℓ)	66		
全長×全幅×全高(mm)	4,690×1,810×1,445	4,690×1,810×1,435	
ホイールベース(mm)	2,840		
トレッド前/後(mm)	1,565/1,550		
最低地上高(mm)	130	120	
室内寸法(長×幅×高 mm)	1,905×1,450×1,160		
乗車定員(名)	5		
ステアリング	ラック・ピニオン式		
サスペンション 前/後	4リンク式/マルチリンク式		
ブレーキ 前/後	ベンチレーテッドディスク/ソリッドディスク		
駆動方式	後輪駆動(FR)		
トランスミッション	電子制御7速AT		
タイヤ	225/55R16	225/50R17	

アバンギャルドにはAMGラインの設定があります。詳しくは販売店にお問い合わせください

「メルセデスの本気」



メルセデス・ベンツ日本
代表取締役社長兼CEO
上野金太郎氏

今回、新型Cクラスを発表するに当たって、あえて「本気」という言葉を使いました。7年ぶりのフルモデルチェンジだけに、それこそすべて、あらゆる分野で最大限の力を投入して作り上げました。Cクラスは常にセグメントの指標とされ、世界で累計1000万台以上を販売したモデルです。

新型は「アジリティ&インテリジェンス」のコンセプトのもと、大きな進化を遂げて、まさに比類なきスポーティセダンとして生まれ変わりました。まずはぜひ、ドライブしていただきたい。そして、我々メルセデス・ベンツに関わるすべての人間の本気を感じ取ってもらえれば大変喜ばしい。これからもお客様のために、販売店とともにお役に立つことを第一に考えていきたいと思います。

Cクラスの歴史

1982年にコンパクト・メルセデスとして190E(W201)が登場し、ここから現在のCクラスへつながる歴史がスタートしている。1993年登場のW202からCクラスと名付けられ、安全性や走行性能で高い評価を得るとともにステーションワゴンも加わって販売台数も増加。2000年には3代目に当たるW203が登場し、よりカジュアルなクルマとしてクーペモデルも追加されている。先代モデルに当たる4代目のW204は2007年に登場し、高い環境性能を誇るなどプレミアムセダンの地位を確実なものとしている。



メルセデス・ベンツ 新型Cクラス



「新型Cクラスセダン」

軽量高剛性ボディ

新型Cクラスの最大の注目ポイントであるボディは、革新的ともいえる軽量化技術により格段の進化を遂げている。ボディ全体の約48%をアルミニウムとして大幅な軽量化を実現し、さらにアルミとスチールの接合部には「ImpAcT」と呼ばれる接合方式を自動車メーカーとして世界で初めて採用。軽量かつクラストップの高い剛性を確保し、アジリティ向上に貢献している。また、車両重量は先代モデルに比べて70kgの軽量化を果たしており（ホワイトボディ比）、燃費の向上にも大きく寄与している。衝突安全性に関しても、細部まで吟味された構造によりキャビンの変形を最小限にとどめ、加えてアクティブボンネットの採用により歩行者保護性能も高いレベルで確保。ユーロNCAPなどでも最高レベルの評価を得ている。



ボディ全体の約48%にアルミを使用、先代モデル比70kgの軽量化を実現

エアロダイナミクス、サスペンションなど

燃費にも大きく影響してくる走行時の空気抵抗を抑えるため、新型Cクラスは細部まで徹底的に対策を施している。バンパーなどの形状を吟味して乱流の発生を抑え、ホイールハウスに空気が入り込まないようにホイールスポイラーも新設計。燃費向上に加えて静粛性の向上も図られている。サスペンションはフロントに新たに4リンクのマルチリンク式を採用。最適のジオメトリーを常に維持することで、スポーティかつ安定感のあるハンドリングを実現。さらにCクラス初のエアサスペンション仕様も設定されている。また「Comfort」、「ECO」、「Sport」、「Sport+」を選べるアジリティセレクトは、トランスミッション、ステアリングなどを統合的に制御し、状況に応じた最適なセッティングをドライバー自身がチョイスすることができる。



アジリティコントロールサスペンション

パワートレイン

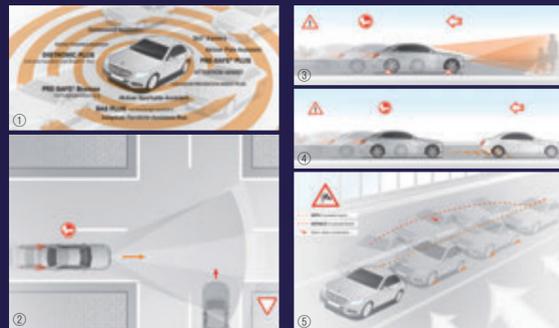
新型Cクラスは新世代の4気筒BlueDIRECTターボエンジンを搭載。C 180/C 180アバンギャルドに搭載の1.6ℓ、C 200アバンギャルド/C 250アバンギャルド搭載の2.0ℓともにスプレーガイド式燃焼システムと呼ばれるガソリン直噴システムにより、最適の燃焼状態を実現し、パワフルな走りと低燃費を両立。さらにエンジンマネジメントの最適化によりターボチャージャーのレスポンスが高められ、アクセルの踏み込みに対するリニア感も大幅に向上。積極的に運転を楽しむためのECOスタートストップシステム（アイドリングストップ機構）の作動フィーリングのよさも特筆できる。

インテリジェントドライブ

先進的な自動運転機能を部分的に採用し、安全性や低燃費に貢献するインテリジェントドライブを新型Cクラスにも採用。新型SクラスおよびEクラスで実用化し、話題となった先進テクノロジーを早くもCクラスに投入してきたことも驚きだが、安全性を高める技術は惜しみなく投入してくるのもメルセデス・ベンツのポリシーだ。このシステムはステレオマルチパーバスカメラとレーダーセンサーで得た周囲の情報を、頭脳ともいえるデータコントロールユニットで集約して瞬時に各種の安全運転支援システムへと指令。自動運転に近い手法で危険を察知してクルマの動きなどを制御し、万一の事故を未然に防ぐレベルまで機能を高めている。まさにインテリジェンスと呼ぶにふさわしいシステムだ。

インテリジェントドライブ各機能

クルマの周囲360度を常に監視しているインテリジェントドライブの機能は幅広い。ディストロニック・プラスは2種類のレーダーセンサーとステレオマルチパーバスカメラにより、先行車と適切な車間を保ちながら安全走行を続けられるのに加え、車線に沿った走行をアシストしてドライバーの疲労を軽減してくれる。飛び出し検知機能付きブレーキアシスト・プラスは、交差点などで不意に目の前に出てきた車両などに対し、緊急自動ブレーキで対応して危険を回避または軽減。さらに歩行者検知機能付きPRE-SAFEブレーキ、被害軽減ブレーキ付後方衝突警告システム、車線逸脱防止機構など、まさに全方位で安全性を確保。加えて縦列駐車などをサポートするアクティブパーキングアシストなど利便性の高い機能も兼ね備えている。



①インテリジェントドライブ（イメージ）②BASプラス（飛び出し検知機能付きブレーキアシスト・プラス）③PRE-SAFE（ブレーキ歩行者検知機能付）④CPAプラス（緊急ブレーキ機能）⑤クロスウィンドアシスト
※一部機能はパッケージオプション

7Gトロニックの進化

定評のある7G-TRONIC PLUSも新型Cクラスへの最適化が図られ、細部の改良により燃費とレスポンスを向上。スリップを抑えたトルクコンバーターの採用により、ダイレクト感を高めるとともに静粛性も確保。さらに各部品の見直し、オイル類の吟味などによってフリクションが低減され、よりスムーズな作動を実現している。また、バドルシフトによってマニュアル運転を楽しんだ後、一定の時間が経過すると自動的にオートマチックモードへ戻り、燃料消費を抑える機能も追加。スポーティドライビングを満喫しながらも省燃費を図れる配慮がなされている。



電動パワーステアリング&ダイレクトステアリング

走りの喜びと高級感を手に入れる。クラスを超えた

エクステリア

先代Cクラスよりやや大きくなったボディは、滑らかで張りのある面構成と、エッジの効いたキャラクターラインなどにより高いクオリティ感を漂わせる。メルセデス・ベンツの特徴ともいえる前後の短いオーバーハングが躍動感を醸し出し、なだらかに下降するドロップングラインが新型Cクラスならではの官能的なフォルムを強調。彫刻的な造形が質感の高さを感じさせる。フロントに回ると、ツインルーバーの中央にスリーポイントスターを配したフロントグリルが存在感を強調し、美しい曲面を描くヘッドライトとともに最新のメルセデスの「顔」を形づくっている。スポイラーリップ形状により空力性能を高めたリアビューもスポーティ感にあふれている。



C 180



C 180 AVANTGARDE



C 200 AVANTGARDE

インテリア

EクラスやSクラスなど、上級モデルに匹敵するクオリティが与えられるインテリアも 新型Cクラスの大きな魅力だ。流れるようなデザインのセンターコンソールはピアノラッカー調もしくはウッドパネルで仕上げられ、室内の高級感を高めている。一方で視認性の高い2連メーター、中央に3つ並べられた円形エアアウトレットなどがスポーティ感を演出させ、適度な囲まれ感がドライビングの楽しさを予感させる。フロントシートはホールド性の高さに加え、背面形状などを見直して長時間のドライビングでも疲れの少ない設計がなされている。後席スペースはホイールベース延長の恩恵を受けて足元の余裕度は明らかに増しており、3分割シートバックによるトランクスルー機構の使い勝手もいい。トランクルームは445ℓの大容量を誇る。



内装：ブラック（レザー-ARTICO）
インテリアトリム：ブラックアッシュウッド



C 250 Sports（今秋納車予定）